

「生成 AI を巡る競争（ディスカッションペーパー）（※）」に関する意見

(※) 生成 AI を巡る競争（ディスカッションペーパー）

https://www.jftc.go.jp/houdou/pressrelease/2024/oct/241002_generativeai_02.pdf

第2の1(1) 計算資源（GPU等）

[設問]

1. 第2の1(1)に関して事実関係など更なる補足はありますか。

《回答》

- チップ供給源の拡大：NvidiaのGPU以外にも、最適化されたチップやプログラム可能なチップを供給する企業は、ハードウェアプロバイダ、スタートアップ企業、クラウドプロバイダなど、幅広く存在しています。
- クラウドリソース：FM（Foundation Model）デベロッパは、業界大手に加え、より小規模なプロバイダを含む様々なプロバイダにより提供される費用対効果の高いクラウドインフラリソースにアクセス可能です。

クラウドコンピューティングサービスの可用性は、FMのトレーニングとサービスの双方における効率性の提供を通じて、新たなFM産業における競争事業者の参入と拡大の障壁をさらに低くしています。

第2の1(2) データ

[設問]

1. 第2の1(2)に関して事実関係など更なる補足はありますか。

《回答》

- アクセス可能なデータセットの存在：FMの多くは、オープンなデータセットを用いてトレーニングされています。これらデータセットはFMのトレーニングに適しており高品質です。FMのトレーニングに特化する形で処理が施されたデータセットも益々増加しています。

第2の1(3) 専門人材

[設問]

1. 第2の1(3)に関して事実関係など更なる補足はありますか。

《回答》

- 有力なAIスタートアップ企業の多くは、既存のFMデベロッパの出身者によって設立され、運営されています（例：Mistralは2023年4月に共同設立。日本では、Sakana AIが2023年7月に共同設立。）
- このように、日本を含め全世界のAIセクタにおいて、流動的な人材のプールが存在します。
- この人材プールは、資金調達とインキュベーション・インフラの存在と相俟って、アプリデベロッパが新たなAI搭載アプリの開発と提供を開始したり、既存のアプリを

AI 機能を搭載したアプリに変換することを非常に容易にしています。これは、必ずしも AI/ML の経験を有していないアプリデベロッパにとっても同様です。

第4 おわりに（公正取引委員会の今後の対応）

[設問]

1. これまで本ディスカッションペーパーが触れていない事項で、生成 AI 関連市場（インフラストラクチャー、生成 AI モデル、生成 AI プロダクト）の現状などについて公正取引委員会として注視すべきことはありますか。

《回答》

- AI バリューチェーンのすべての階層において、持続的なダイナミズムとイノベーションが存在します。そして、それらは、オープンソースの組織、学術機関及び無数のスタートアップ企業や産業における主要なプレーヤによって推進されています。
- FM の開発は非常に競争が熾烈で、生成 AI の新たな機会や活用事例を創出しています。このダイナミズムはイノベーション、競争、ビジネスの成長機会をもたらしています。

3. そのほか、生成 AI に関して御意見等何かございましたら、公正取引委員会に情報提供をお願いします。

《回答》

- 責任ある AI の活用の確保が優先事項です。オープン性、機会、責任及びセキュリティのバランスを慎重に図ることが、極めて重要です。

以上